ドイツ連邦食料・農業省　　農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 2
2022・4・25

1　オズデミール大臣：プーチンの飢餓政策は最貧国の人々に脅威
ーウクライナ戦争による食料不足に関する FAO 会議ー（2022・4・11）

ウクライナでの戦争の影響に関する FAO の世界会議が、4 月 8 日（金）にローマで開催された。

これについてオズデミール大臣：”プーチンは武器として穀物を利用している。
彼は価格上昇と世界最貧国における、飢餓の拡大を望んでいる。この卑劣な戦略でもって彼は、世界中の人々を人質にとっている。我々は国連がロシアの戦略を明確に特定し、そして食料の安全保障上の視点で、ウクライナ戦争の影響を食料の安全保障上の視点で、分析するよう要請する。”

世界的な食料の安全保障上の影響について、FAO の最初の予測によって、これまで戦争のため約 800 万人の飢餓に苦しむ人々を、さらに 1 300 万人に増加すると見込んでいる。アジア/太平洋（特にバングラデッシュ）地域とアフリカは同じような状況に該当している。FAO はこれらの国々への支援が、必要であるとのことに同意している。このため、世界食料プログラム（WFP）が、財政的に強化されることを保障すべきである。

この WFA は、ウクライナからの小麦の 50%を購入し、そして支援供給量を保障するために、値上がり分の超過コストによって、1 カ月当たり 7 100 万 US-ドル（約 88 億 7　500 万円）の価格上昇が見込まれる。これは 44%の価格上昇となり、そして国際的な支援が不足すれば、WFP が食料供給のための割当量を、縮減しなければならない。価格上昇はこの否定的な影響をさらに強める。

オズデミール大臣はさらに続けた：”ロシアの食料輸出を抑えているという報道は、さらにプーチンが地理戦略的な策動として、目的とする飢餓を利用していることは、さらなる証拠である。この行動は無責任であり、それだけになお一層市場を開放することは、国際的な国家共同体のために、非常に有効である。それ以外の全てのものの価格変動と、市場不確実性を高めることとなり、警戒を怠ってはならない。

比較できる市場変動は既に 2008 年に起こっている。食料の全般的な価格状況は、2008 年よりも今は良好であり、現在よりも良い価格であった。戦争にも拘わらず、北半球における最終収穫量の販売もまた、大部分が実施された。だがしかし、大規模な輸出業者の小麦備蓄は限度がある。輸入に依存している国のために、価格的に非常に高い水準となり危機的な脅威を意味している。”

乾いた畑ーそれでも耕す

FAO の世界食料計画（WFP）飢餓との闘い支援で食料を提供

2 オズデミール大臣：ウクライナ戦争の結果を克服そして農業を促進

ーウクライナの農業大臣が出席し戦争の現状を報告ー（2022・4・7）

連邦食料・農業大臣オズデミールが、今日（4 月 7 日）ルクセンブルグでの EU ー農業理事会に参加した。この理事会の中心点は、ウクライナでのロシア侵略戦争が、農業市場に及ぼす結果に置いている。

EU-農業理事会の会議場

ウクライナの新しい農業大臣、ミコラ・ソルスキーも彼の国における当面の状況を報告するために参加した。

オズデミール大臣：”我々はウクライナを力の及ぶ限り支援する。この困難な条件下にあっても、ウクライナにおける農業生産を断固として維持し、そして自国の人々に食料を供給するために奮闘している。このため、EU は緊急支援プログラムから、3 億 3 000 万ユーロ（約 169 億円）でもって支援する。

ウクライナ支援は、連帯の重要なシグナルである。食料の供給が世界規模で、保障されねばならないことは、衆目の一致するところである。我々はウクライナにおける戦争の影響を克服すること。しかし、同時に持続可能な農業システムへの必要な転換もまた、促進させることは重要なことである。我々は農業の基盤を確保するために、今、気象保護と生物多様性に投資しなければならない。”と、大臣は強調した。

加えて各国の農業大臣は、持続可能な炭素循環について、委員会報告のために、理事会の最終結論を決議した。その際、炭素の長期的な蓄積のために、重要な気象保護政策と炭素農業（訳注参照）を通じた農業の貢献が重要である。ドイツはこの最終結論に合意した。しかし、議事録説明において「炭素農業」気象ー生物多様性を奨励する管理形態の促進を強調した。さらに今ある融資枠の中での投資と、検証可能なシステムを基盤に実施されねばならない。

さらに大臣は、「土地利用とその変化、そして林業の規定（LULUCF）」についても議論した。気象保護「Fit for 55」における一連の政策において、温室効果ガスー排出のための今ある計算ー記帳システムと、新しい報告システムによる LULUCF-分野における生活障害の解消を提案した。

訳注：木材チップ、もみ殻など炭素率の高い有機物を土中に鋤込み、それを糸状菌が分解して作物の栄養とし、農薬、化学肥料を使用しない農業

ウクライナ農業大臣　ミコラ・ソルスキー

ウクライナはヨーロッパの穀倉

3　オズデミール大臣：東アフリカは 40 年来最悪の飢餓状況に襲われる

ーウクライナの戦争危機とアフリカの飢餓に最大限の支援をー（2022・4・12）

連邦政府は、世界的な食料確保のために、4 億 3000 万ユーロ（約 559 億円）を準備している。FAO の特別会議が、ローマで 4 月 8 日（金）に開催された。そして世界食料に対して、ウクライナ戦争の影響が話し合われた。

連邦食料・農業大臣オズデミールは、今日（4 月 12 日）農業農村作業グループ（AbL）並びにドイツカトリック司教開発組織（ミゼレオーレ）、市民社会援助団体、世界パン、キリスト教イニシアチブ ロメロ（CIR）、世界の飢餓を終わらせるための団体（FIAN）、気象救済基金（INKOTA）そしてオックスファームインターナショナルの代表と、世界で当面する飢餓問題について会談した。

オズミデール大臣：”我々は一致している。我々は飢餓と種の危機に対して、共同で闘わねばならない。飢餓と気象危機は、今日既に人々の生存を脅かしている。東アフリカにおいて、例えば 40 年来最悪の飢餓のために、苦しみに瀕している。既に戦争と気象危機と、そして同時に伴って襲ってくる干ばつと川の氾濫に遭遇している国々は、輸入に依存している。

これらの事で我々は、基礎的な食料供給への影響を予測している。持続可能なかつ気象に適応した農業は、現地で、そして我々の戸の前で、ヨーロッパで強化されねばならない。我々はこの事のみが食料の権利を確保できる。”オズデミールは、”農業一食料政策に関する現在の健康上の問題を、世界的に意見交換することを、国連世界食料委員会（CFS）に要請した。

加えてドイツ国民の巨大な援助準備、並びにウクライナへの莫大な支援のための作業が賞賛されている。ロシアのウクライナへの国際法違反の侵略戦争の結果は、ヨーロッパの国際共同社会でここ何十年も経験していない、大規模なものとなった。この戦争はウクライナの人々に、限りない苦しみを引き起こしている！そのため、我々はウクライナの人々を支援することに、全力を尽くす。連邦政府は人道主義的な支援を、64 000 万ユーロ（約 83 億 2 000 万円）から、総額 3 億 7 000 万ユーロ（約 481 億円）に増額する。

我々はこのことで、特に世界食料プログラムの活動を拡大する。さらに我々は、ドイツにおいて総額で今、4 億 3　000 万ユーロ（約 559 億円）を、世界食料確保のために準備している”と、オズデミール大臣が述べた。

乾いた畑　それでも願いを込めて耕す

バッタの大繁殖―あらゆる作物・植物を食いつくす

4　オズデミール大臣：持続可能な目標の維持を―農業未来委員会と意見交換

―ウクライナ支援とともに気象・生物多様性の危機を視野に―（2022・3・23）

今日（3 月 23 日）、「農業の未来のための委員会（ZKL）」に、オズデミール大臣が出席し委員と意見交換を行った。この委員会では、各分野のエキスパートがドイツ農業の未来について、政府への提言を行っている。この委員会の委員長は、教授・博士ピーターストロシュナイダーである。

委員長を務める教授・博士ストロシュナイダー

そして委員は、専門分野における各団体の代表者が 参画している。農業分野からは、ドイツ農業協会会長、ドイツ農村女性連盟会長など 10 名、
経済・消費者分野からは、ドイツ食品協会会長、ドイツ消費者団体連盟会長など 8 名、環境と動物福祉の分野からは、ドイツ環境ー自然保護会長、ドイツ動物福祉協会会長など 6 名、科学の分野からは、ミュンヘン工科大学、チューネン研究所などの教授、科学者が 6 名、合計 31 名のエキスパートが任命されている。この委員会の目的は、持続可能な農業、食料システムの構築に向けた提言を、連邦政府に提出し、政府はこれをベースに必要な政策を実践することをある。この日はこの委員会で策定した提言を、連邦食料・農業大臣に提出した。

今回の委員会は、特に農業一食品業に対するウクライナ戦争の影響について、意見交換を行った。連邦大臣オズデミールは説明した：”私はこの委員会の皆さんに感謝したい。 この提言にある挑戦を克服できるように、建設的でそして開かれた議論を行ったことに、私はお礼を申し上げる。私は実践的な提案を聞き、そしてイデオロギー的な偏見の無い提言を見ることができた。

今喫緊の課題は、この戦争でウクライナの側に立つことである。これは全く自明のことである。我々はドイツにおいてウクライナ支援のため、コンスタントに必要な物資供給を視野に入れること。ここでは特に食料の供給を、保障することである。これはドイツの各州一食品業界の貢献のお蔭で、現在実施中である。しかし、今有効なこと。それは戦争の影響を緩和することである。その際、自然一気象に適応した農業の目標を、我々の視野から失ってはならない。なぜならば、我々は危機の同時性を有しているからである。

ロシアのウクライナに対する侵略戦争は、我々の政治的な行動の焦点の中にある。さらに気象一生物多様性の危機が、危険な影響をもっている。そのため、我々は持続可能な、そして回復力のある農業、食料システムへの転換に向けて行動している。「農業からフォーク（あるいは食卓)」までの EU 一委員会の戦略とこの未来委員会の結論を、今止めてはならない。そして我々の努力を今緩めてはならない。

私は農業一食品業が貢献することを知っている。同時に生産基盤の保護は、優れた食料を来るべき次世代に、保障するために不可欠である。私は今、この委員会によって共同で策定された成果を受けとめ、そしてさらに我々の方向転換のための「共鳴板」として、当委員会がさらに支援してくれることを喜んでいる”と、オズデミール大臣は述べた。

「農業の未来のための委員会」の委員一同

検討会議の状況

5　ウクライナ戦争ー連邦食料・農業省の行動分野

ーウクライナへの食料の供給・国内農業への飼料確保対策ー（2022・4・4）

ウクライナにおける戦争の結果は、農業と食料の分野にも明かに感じ取れる。それはウクライナ自身、そして世界的にもドイツでも同様である。我々はこの影響を的確に把握し、そして同時に目的に適応し実践的な政策でウクライナを支援している。

ウクライナのイメージ・空の青さと菜の花畑の黄色

ドイツにおける難民とウクライナへの支援

ウクライナ国民への支援物資の供給は、憂慮すべき状況にある。幾つかの場所では、緊張した状況にある。連邦食料・農業省は、食品業と流通業からウクライナへの食料を大規模に提供するために、調整事務所を設立した。この事務所は、ウクライナからの公的な要請に基づいて、ドイツ食品業界から提供された寄付ー物資を調整する。ドイツにおける難民支援を背景に、連邦内務・建設・国土省（BMI)、連邦家族・高齢者・女性・青少年省(BMFSF)、ボランテイアと社会参画のためのドイツ基金（DESS）が、共同で支援を行っている。

ドイツにおける農業経営と物資供給への対応

連邦食料・農業省は、農業と物資供給に対する危機の影響を、現地で正確に見極める。ドイツ国民への食料供給は保障されている。にも拘らず、政治もまた戦争の結果を取り消せない。特に高騰するエネルギー価格によって、食料価格もまた上昇している。

連邦政府は、国民の負担を和らげるための政策を促進している。今この時期にハムスターなど愛玩動物を買い入れる行動は不要で、そして連帯の欠如は物資供給チェーンに、さらなる困難をもたらす。ドイツにおける農業経営に対して、ウクライナ戦争の影響を緩和させるために、連邦大臣オズデミールは様々な緊急政策を実施している。連邦政府は、さらなる政策を柔軟に、適切な時期に効果的に対応する。ウクライナからの難民は、ペットを伴ってドイツに来ていることから、「ウクライナからペットを連れて入国のために」の情報も整備している。

一連の政策概要

ー 有機栽培を実施している農地（ŐVF）で成育した作物について、例外規定として 2022 年に限りカテゴリー「間作作物」を飼料への転用を認可する。

ー 現在実施している「蛋白作物戦略」を強化し、財政的に拡大する。これは地域で生産された飼料の提供と、同時に遺伝子操作の無い蛋白飼料供給について、ドイツの自主性を強化する。

ー 今ある農業における再生可能エネルギーと、エネルギー効率性向上奨励プログラムを、官僚主義に陥ることなく推進する。

ー このため、EU レベルで実践的に、かつ柔軟に可能性を試行する。さらに有機家畜飼育における家畜に適した給餌に尽力する。なぜならば、有機栽培はウクライナの飼料輸入停止のために、特別な規定で対応する。

EUの支援

EU ー委員会は、総額 5 億ユーロ（約 650 億円）を、EU ー財源から危機対策のために拠出する。ドイツには、約 6　000 万ユーロ（約 78 億円）が交付される。この資金は、特別に危機に該当している農業分野の農業者に届く予定である。連邦政府は、EU ー法によって可能な限り最高額の 1 億 2 000 万ユーロ（約 156 億円）への増額を計画している。2022 年に実施する支援の詳しく、かつ具体的な内容は現在策定中である。

世界規模での食料状況の監視

連邦政府は世界的な食料状況を注視し、そして他の所管部局と G7 ーパートナー国と密接に調整を行う。その際、決定的なことは FAO とローマに常駐する国連ー組織との密接な連携である。ここは中心的な科学機関として貴重なデータと事例を提供する。これは連邦政府の状況分析の基礎となる。

ウクライナとロシアは、穀物の重要な生産国と輸出国である。収穫の中止、貿易の制限、流通問題そして価格上昇、（とりわけ小麦、ナタネ、トーモロコシ）が、世界的に既に緊張状態になっている。

このため、食料援助に依存している貧しい国は、この困難な状況に遭遇している。これは明白なことである。つまり、ロシアが穀物ー肥料を、地政学上の権力手段を投入している。グローバルな農業市場を開放しておくことは、さらなる価格上昇に対抗するために、重要な手段である。連邦首相オラフ・ショルツは、3 月 24 日にブリュッセルで開かれた G7 ーサミットで公表した。

人道支援としてこれまで 6 420 万ユーロ（約 83 億 4 600 万円）から全体で、現在 3 億 7 000 万ユーロ（約 461 億円）へと引き上げた。さらにドイツは、グローバルな食料保障のために、4 億 3 000 万ユーロ（約 559 億円）を準備している。これは特に今の戦争の結果、アフリカ、中東―北アフリカ地域の危機に瀕している国の状況を、緩和するためである。

連邦大臣オズデミールは、G7 一国の農業大臣を今年の 5 月半ばに、ウクライナの大臣と国連世界食料計画（WFP）と経済協力開発機構（OECD）、国連食料農業機関（FAO）そして交通情報提供システム（AMS）の高位ランクの代表者を、世界規模での食料の供給状況について情報交換する。

危機に強い農業の中心となる持続可能性の向上

連邦食料・農業大臣オズデミールにとって、中心となる重要な持続可能な目標を堅持する上で、彼は強調した：”この戦争の影響を緩和することが重要である。その際、自然一気象に適応した農業の目的を、視野から失うことなく。

なぜなら、我々は危機の同時性を持っているからである。ウクライナに対するロシアの侵略戦争に、現在我々の政治行動の焦点をおいているからである。さらに加えて、気象―生物多様性の課題に対して責任を負っている。”だからこそ、我々は回復力があり、そして持続可能な農業一食料業システムへの転換に取組んでいる。

ウクライナへの救援物資を仕分けするボランテイア

ドイツからウクライナへの救援物資の輸送

トラックと鉄道でウクライナに救援物資を送る

この子供達に一刻も早く支援の手を

6　オズデミール大臣：ドイツはウクライナにさらなる支援を

ー５中旬のＧ７会合にウクライナ国農業大臣を招くー　（2022・4・24）

連邦大臣オズデミールは、ウクライナの農業大臣と交流し、5 中旬の Ｇ ７ー会合に同僚大臣として招き、現地から直接報告することとした。彼はこの週末にデジタル会議で、ウクライナの農業大臣ミコラ・ノルスキーと意見交換を行った。

その際、相互的な提携の一層の深化とさらなる支援を保証した。オズデミールは、食料供給のための調整事務所を通じて、ウクライナへのドイツのさらなる支援を明確にした。

なぜならば、ウクライナにおけるヒューマニズムの状況改善のために、ドイツの食品業と小売業の直接的な食料―寄付が、さらに重要となっているからである。”ドイツとウクライナは農業ー食料業の分野において、長年にわたって密接なパートナーである。そしてウクライナの困難な状況の中で、ドイツ農業省はウクライナの側に立っている”と、オズデミールは述べた。

ドイツとウクライナは、これまでも両国農業委員会あるいは国際機関において、定期的な交流を行ってきている。特に今の時代における直接的な交流は、まさに双方的なプロジェクトの共同プログラムの中で、集中化させることが重要である。Ｇ７会合では、新たに戦争の状況を確認し、そしてグローバルな食料の安全保障のための方向を、示すこととなる。特に開かれた市場を確認し、そして市場監視のための信頼できるデータの重要性について、意思統一する。

重要なことは、ドイツがＧ７―会合の議長職の権限で、ウクライナとの連携強化を図る。しかしまた、世界の他の地域とも同様である。食料の安全保障のテーマは、最終的に国際アジェンダにおいて、優先性をもたなければならない。

2021 年 G7 ー新潟農業大臣会議（4 月 23 日~24 日）

２０２２・４・２４・訳
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川 一徹